追跡レポート

こないだ聴いたこたぁ どうなっただやぁ

問　「障害者」の「害」をひらがなに改める考えは。

答　障害者の皆さんが望むならば、順次切り替えていきます。

その後　9月1日から「害」という漢字の否定的なイメージを考慮し、障がい者の人権をより尊重するという観点から、行政公文書・啓発資料・広報誌・行政ホームページ等において、「障害者」を「障がい者」の表記に改めました。（条例・規則等は除く）

問　白馬に温泉があることを知らないお客様が多いので、もっと看板等で温泉を売り出す必要があると思いますが。

答　温泉を売り出す必要性はありますので、観光局の事業として取り組みをしていきたい。

その後　白馬駅前に案内板を設置しました。

おらが里づくり

飯田老人クラブ会長　**横川　常美**

花壇が整備された犬川沿い

白馬村が誕生して、五十二年が経過しました。美しい景観に恵まれた白馬村は、スキーを中心としたスポーツ観光地、また四季を通しての快適なリゾートとして脚光を浴び今日に至りました。1998年には、冬季オリンピックの会場地として、一躍世界の白馬として有名になりました。

このような白馬村を、第二の故郷として移住する村民が増え、飯田区でも「白馬の森」を中心に六十軒余が新しい区民の方であります。

はじめは、古い慣習の道普請や河川敷の草刈り、区の経費の負担など、馴染めないことが多かったようですが、相互の話し合いや長い交流を経て祭りなどの伝統行事も含め、今は、ほとんど拘りはありません。先人達や毎年の役員の努力が実を結びました。新しい区民の中には、色々な技能経験、知識、アイディアを持った住民が多いようです。今、新旧住民が互いに協力して地域づくりを進めることで、飯田区は村を代表する近代的集落として衣替えしたように思います。

観光面で「白馬五竜」は、冬のスキーと春から秋の山野草園で賑わい、村の通年観光の一翼を担っています。中山間地の補助事業で造成した自然園も、漸くホタルが飛び交うようになりました。犬川両岸の花壇造りも着々と進められています。

新旧住民が、手を携えての地域づくりの成果に、更なる進展を期待しながら、ほっとしているこの頃であります。